

# 経営レポート 2020

音更町上下水道事業

○水道事業  
p1-p5

○下水道事業  
p6-p10

令和2年10月13日

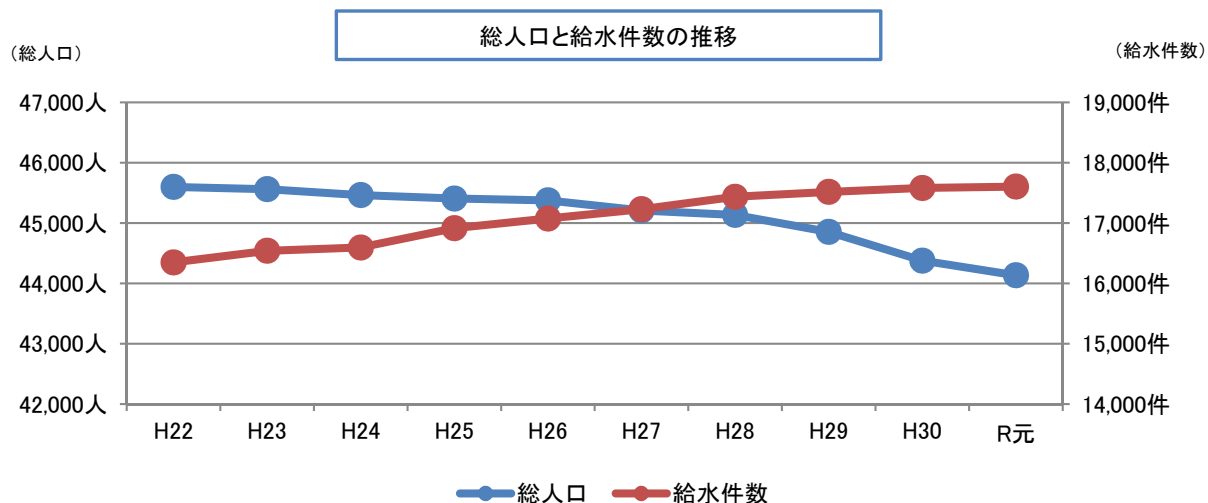
# 1 業務の概要

## 水道事業

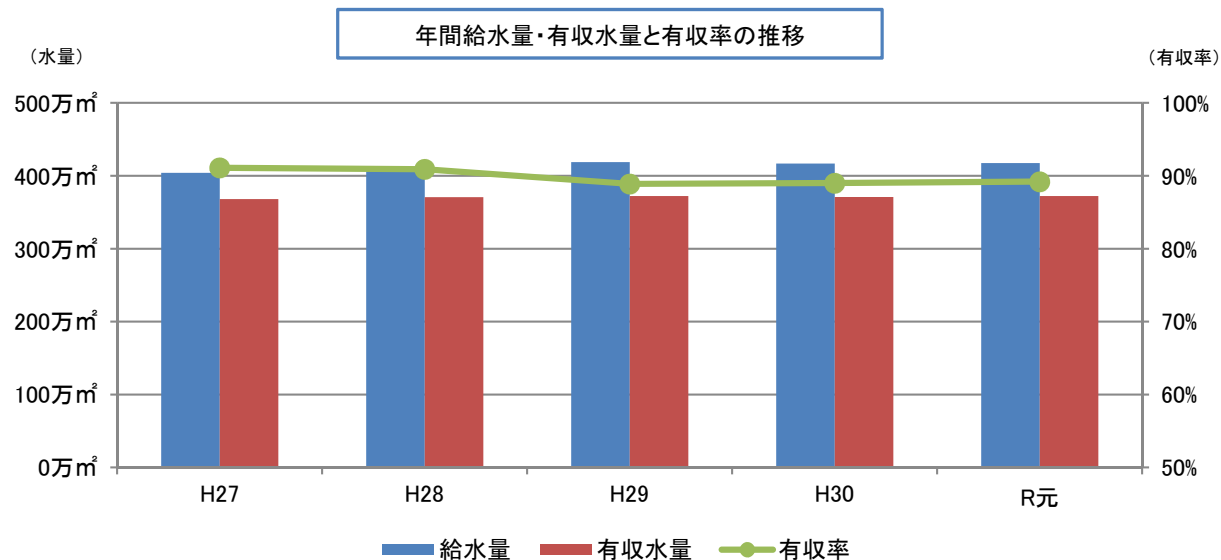
令和元年度末の給水件数は1万7,606件で、対前年度22件の増となりました。

令和元年度の年間総給水量は418万 $\text{m}^3$ で、有収水量は372万 $\text{m}^3$ でした。

給水の効率性を示す有収率は89.2%で、対前年度0.2ポイントの増となりました。



- 町の総人口は、平成22年の45,600人をピークに減少傾向にあります。核家族化により給水件数は増加しています。



- 給水量とは、浄水場から送り出された水量のことです。
- 有収水量とは、料金算定の対象となった水量のことです。
- 配水管の更新工事等の実施により損失水量が減少し、有収率は対前年度0.2ポイントの増となっています。

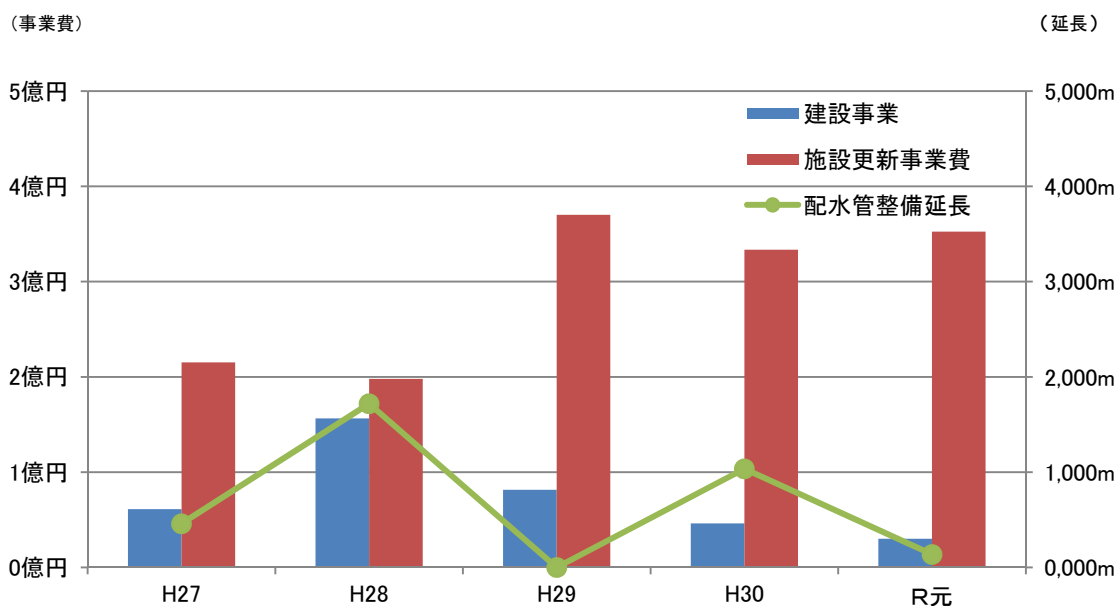
## 2 主要な建設事業

## 水道事業

令和元年度の建設事業費は3,000万円で、対前年度1,600万円の減となりました。

令和元年度の施設更新事業費は3億5,300万円で、対前年度1,900万円の増となりました。

建設事業費、施設更新事業費及び配水管整備延長の推移



### 建設事業

平成16年度に着手した第3次拡張事業は平成30年度に整備が完了しました。

令和元年度は、町道改良工事と併せて行う布設工事や、開発行為関連の道路廃止に伴う布設工事を行いました。

### 施設更新事業

施設更新事業では、主に老朽化した既設水道管の更新工事を行っています。

水道管の法定耐用年数は40年ですが、町が毎年実施している宅内道路の再整備箇所には、布設から35年以上経過した水道管が埋設されている場合には、道路工事に併せて更新を行うことにより経費を抑制できるため、道路整備の担当課と連携して更新工事を実施しています。

### その他の事業

住宅の新築などにより、新たに給水を開始する場合の新規設置の量水器(水道メーター)購入を行っています。また、量水器の有効期限は計量法により8年と定められていることから、期限を迎える前に対象となる量水器の取替工事を行っています。

# 3 決算の状況

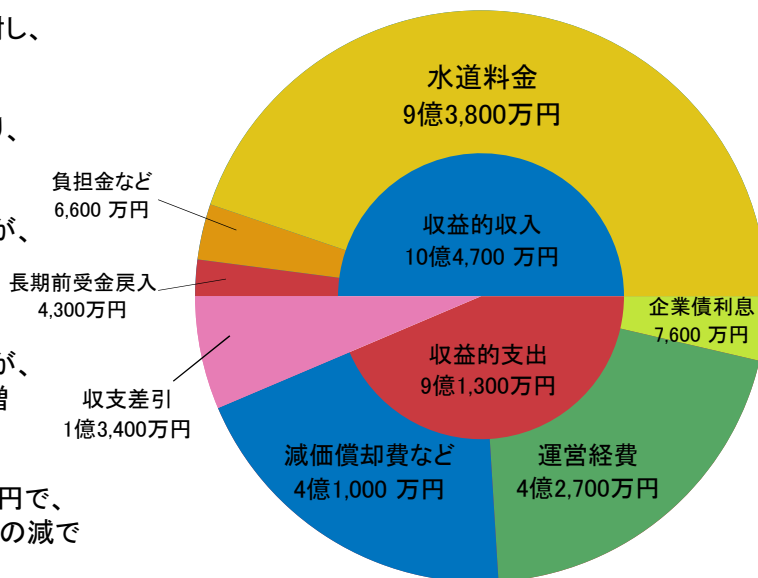
## 水道事業

令和元年度の給水収益は9億3,800万円で、対前年度1,000万円の増となりました。  
 令和元年度の純利益は9,500万円で、対前年度2,900万円の減となりました。

### 収益的収支

#### 収益的収支の内訳

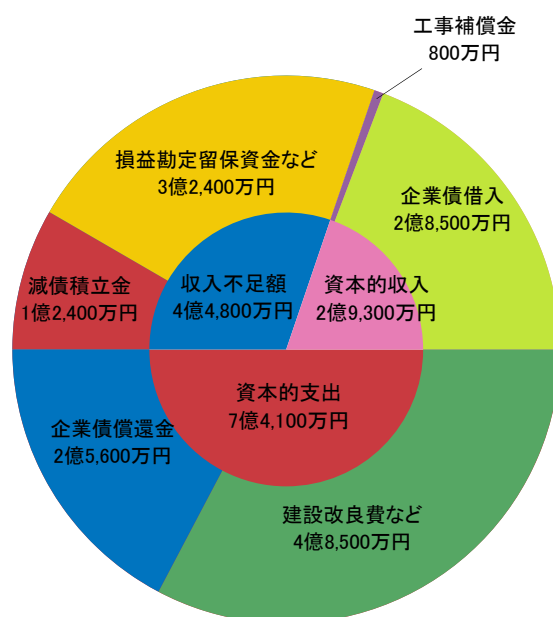
- 事業運営の結果、収入額10億4,700万円に対し、支出額は9億1,300万円となりました。
- 給水収益(水道料金)は、9億3,800万円となり、収入のおよそ9割を占めています。
- 収入は対前年度1,000万円の増となりましたが、その主な理由は給水収益などの増によるものです。
- 支出は対前年度3,200万円の増となりましたが、その主な理由は修繕費や減価償却費などの増によるものです。
- この結果、収益的収支の差引は1億3,400万円で、消費税調整後の純利益は対前年度2,900万円の減で9,500万円となりました。



### 資本的収支

#### 資本的収支の内訳

- 建設改良費は、施設更新事業費や量水器整備事業費の増により、対前年度3,300万円の増となりました。
- 企業債償還金は、平成18年に借り入れた借換債の償還が終了したことにより、対前年度200万円の減となりました。
- 資本的収支における収入不足額4億4,800万円については、減債積立金や損益勘定留保資金など、収益的収支から発生した財源で補っています。

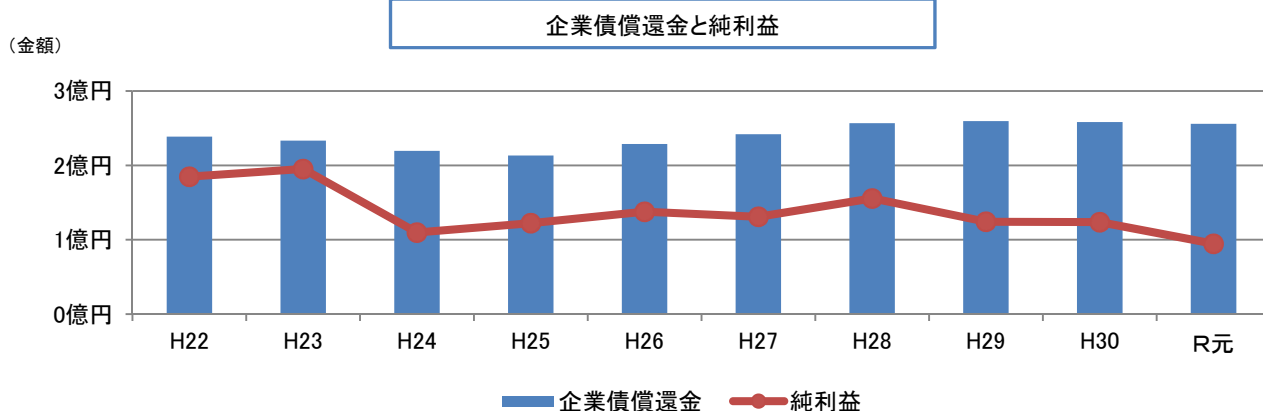


## 4 損益の状況

水道事業

令和元年度の純利益は9,500万円で、対前年度2,900万円の減となりました。

純利益は全て「減債積立金」に積み立て、企業債の償還財源とします。



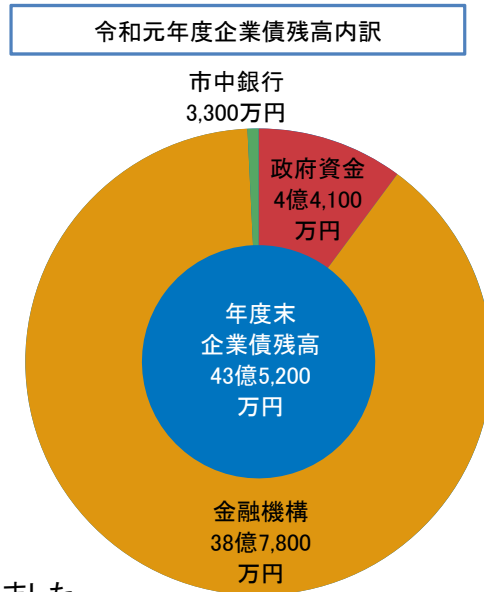
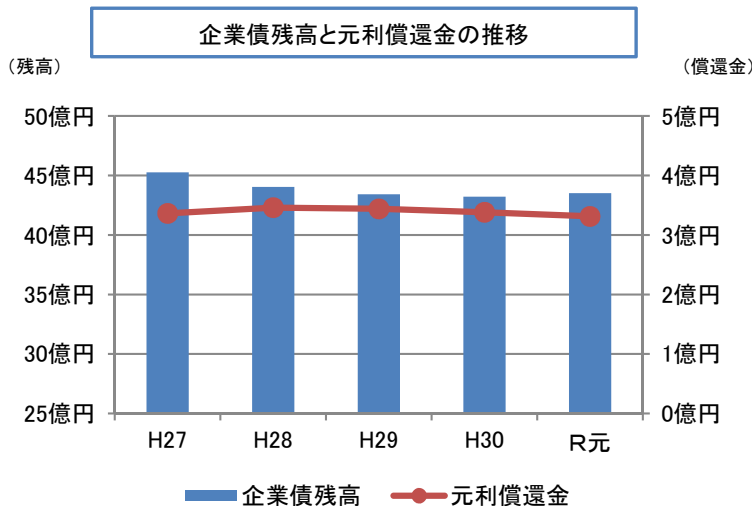
- 直近の10年間は毎年度1億～2億円の純利益を計上していますが、水道事業では資本的収支における収入不足を補うため、全て翌年度の企業債の償還に充てています。

## 5 企業債残高と元利償還金の推移

水道事業

令和元年度の企業債残高は43億5,200万円で、対前年度2,900万円の増となりました。

令和元年度の元利償還金は3億3,100万円で、対前年度700万円の減となりました。



- 企業債残高は、平成24年度以降減少傾向にありましたが、更新事業の増加により、令和元年度は借入額が償還額を上回りました。
- 今後は施設の更新事業が中心となるため、内部留保資金などを活用することで借入を抑制し、経営上大きなウェイトを占める元利償還金を減らしていこうと考えています。

# 6 料金の収納状況

## 水道事業

令和元年度の水道料金調定額は9億3,800万円で、対前年度1,000万円の増となりました。  
 令和元年度の収納率は97.9%で、対前年度0.4ポイントの減となりました。

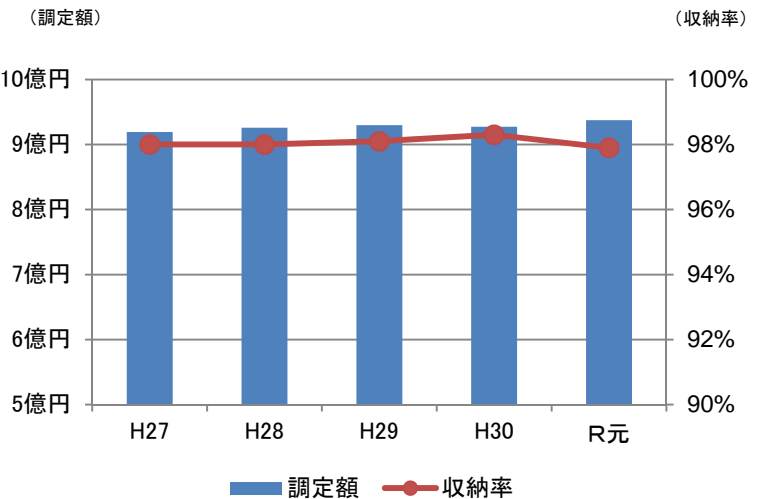
○ 水道料金の令和元年度現年度調定額は9億3,800万円で、収納額は9億1,800万円となりました。

○ 令和元年10月の消費税率改定による料金改定で、調定額は対前年度1,000万円の増となりました。

○ 令和元年度現年度調定分及び過年度調定分の合計の収納率は97.9%で、現年度分のみ  
 の収納率も97.9%となりました。

※ 調定額とは、料金の請求額のことです。

料金の調定額と収納率の推移



### 滞納への対応

#### 滞納者への対応の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
徴収員の訪問	8,734回	8,885回	9,283回
停水予告送付	752件	582件	673件
停水通告送付	457件	409件	412件
停水実施	106件	120件	68件

#### 徴収員による徴収状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額	5,369,316円	4,197,580円	4,443,672円

### 不納欠損

	居所不明	法人の倒産・破産	本人死亡	合計
人数	2人	4人	2人	8人
件数	9件	13件	3件	25件
金額	11,444円	50,816円	4,751円	67,011円

# 1 業務の概要

## 下水道事業

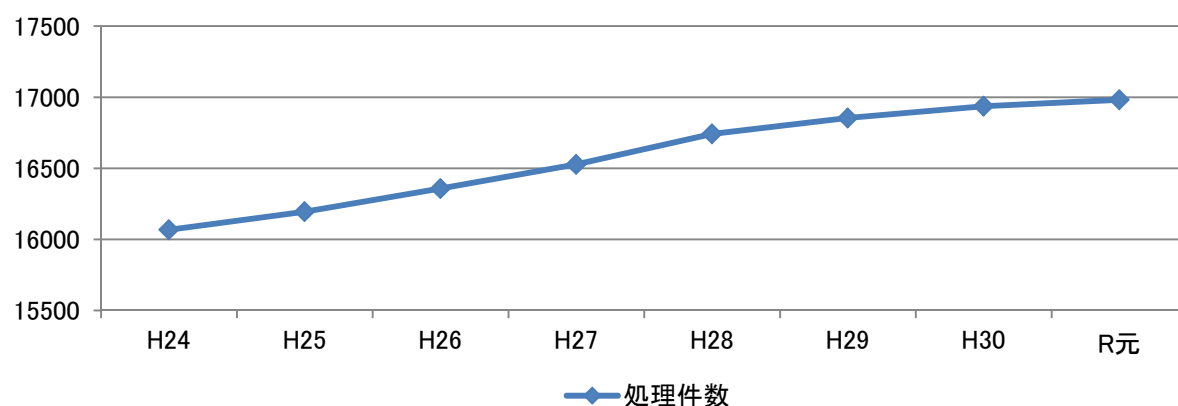
令和元年度末の汚水処理件数は1万6,982件で、対前年度45件の増となりました。

令和元年度の年間総処理水量は452万 $\text{m}^3$ で、有収水量は364万 $\text{m}^3$ でした。

汚水処理の効率性を示す有収率は80.5%で、対前年度4.2ポイントの増となりました。

(件数)

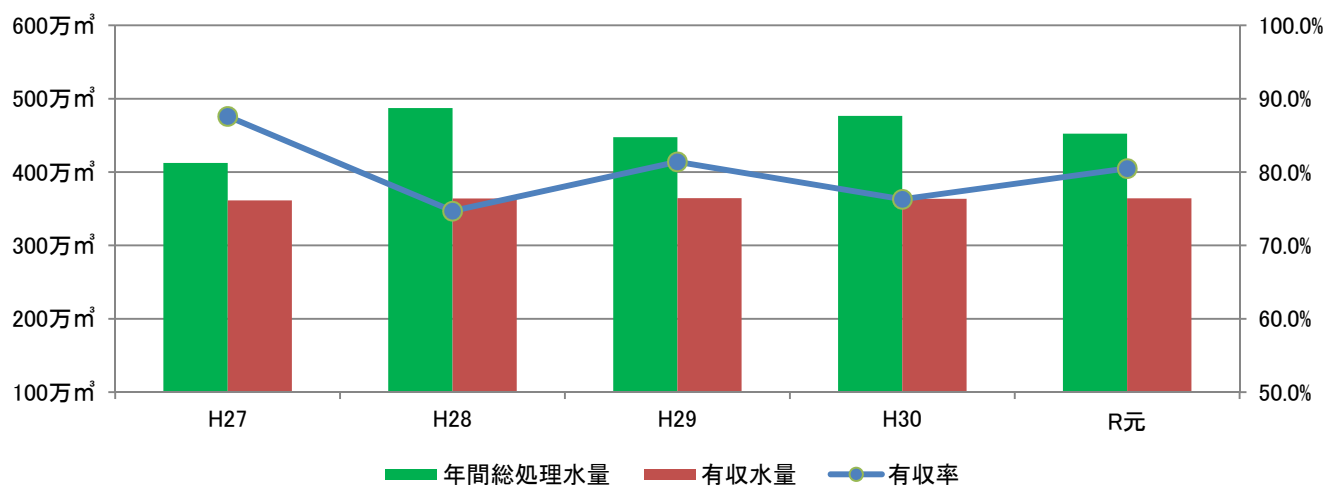
汚水処理件数の推移



(水量)

年間総処理水量・有収水量と有収率の推移

(有収率)



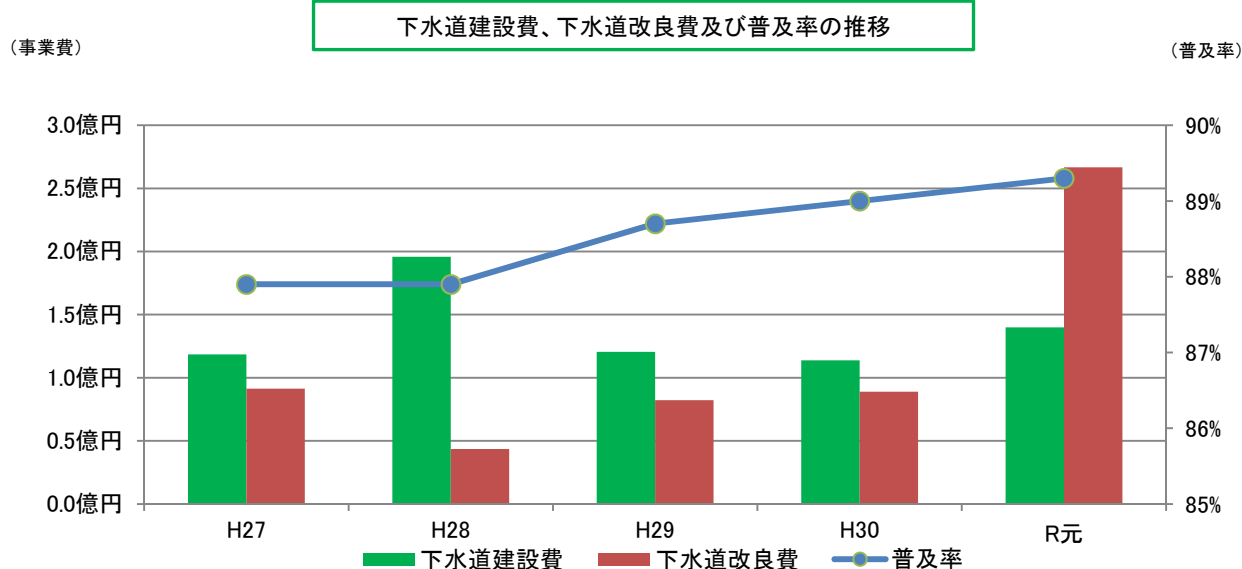
- 処理水量とは、汚水処理場に流入した水量のことです。
- 有収水量とは、使用料算定の対象となった水量のことです。
- 令和元年度は前年と比べ降水量が少なく、雨水や地下水などの不明水が減少したため、年間総処理水量が対前年度24万 $\text{m}^3$ の減となりました。汚水処理の効率性を示す有収率は対前年度4.2ポイント増加しました。

## 2 主要な建設事業

## 下水道事業

令和元年度の下水道建設費は1億4,000万円で、対前年度2,600万円の増となりました。

下水道改良費は2億6,700万円で、対前年度1億7,800万円の増となりました。



### 下水道建設費

- 下水道建設費では、処理区域の拡大に伴う下水道管の布設を中心に、処理施設の新設などを行っています。

### 下水道改良費

- 下水道改良費では、老朽管の更生事業など、既存施設の更新を行っています。
- 令和元年度は、国が実施する国道241号の電線共同溝事業に伴う污水管移設や木野污水中継ポンプ場の電気設備更新工事などを行いました。

#### ◆なぜ下水道管の更生工事が必要なのか？

埋設されている下水道管は、経年劣化による老朽化や、地震といった災害などによる漏水や破損といった問題を抱えています。

そのままにしておくことで、下水管が詰まって下水が逆流したり、破損によって下水が地上に吹き出したり、地下に浸透して地下水を汚染してしまうなど、大きな問題が起きてしまいます。

また、下水道管に穴があき地下水が流れ込んでしまえば、下水処理場の処理能力を超える恐れもあります。



# 3 決算の状況

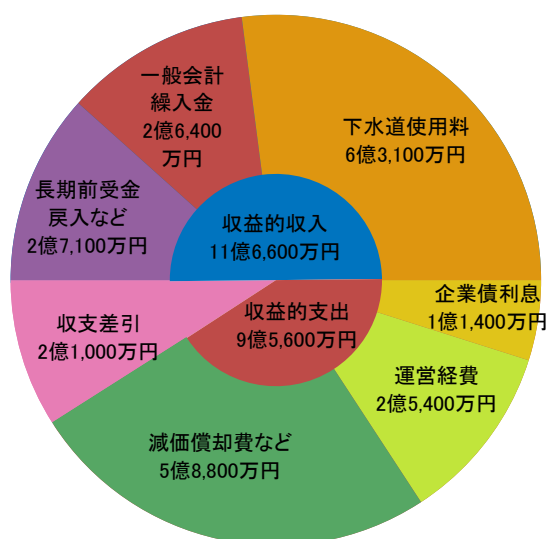
## 下水道事業

令和元年度の使用料収入は6億3,100万円で、対前年度700万円の増となりました。  
 令和元年度の純利益は1億8,400万円で、対前年度600万円の減となりました。

### 収益的収支

- 事業運営の結果、収入額11億6,600万円に対し、支出額は9億5,600万円となりました。
- 使用料収入は6億3,100万円となり、収入の5割を占めています。そのほか、一般会計から負担金及び補助金として2億6,400万円を繰り入れています。
- 収入額は対前年度1,200万円の増となりましたが、その主な理由は、収入額の増です。
- この結果、収益的収支の差引は2億1,000万円で、消費税調整後の純利益は対前年度600万円減の1億8,400万円となりました。

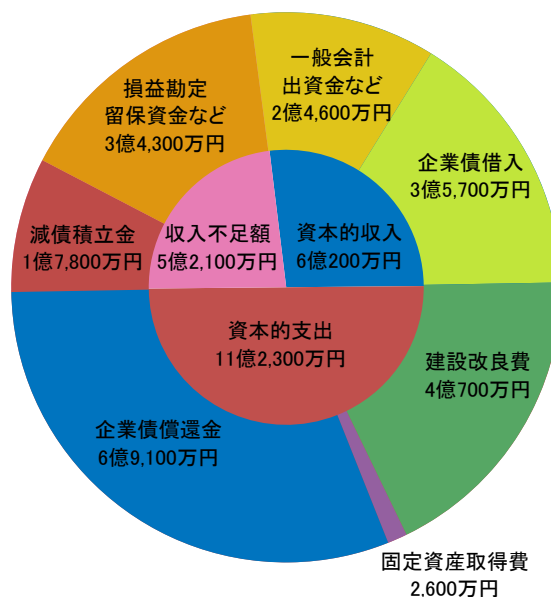
収益的収支の内訳



### 資本的収支

- 建設改良費は、下水道建設費が2,600万円、下水道改良費が1億7,800万円増加したことで、支出は前年度から2億400万円増加しました。
- 企業債償還金は、対前年度1,700万円の減となりました。供用開始から30年余りが経過し、供用開始時期に借り入れた企業債の償還が終了し始めたことで、減少傾向となっています。
- 資本的収入における収入不足額5億2,100万円については、減債積立金や損益勘定留保資金など、収益的収支から発生した財源で補っています。

資本的収支の内訳



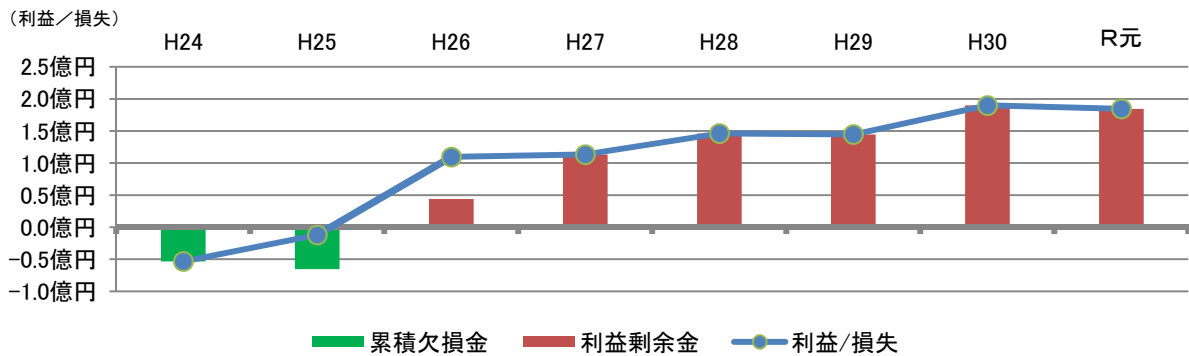
## 4 損益の状況

下水道事業

令和元年度の純利益は1億8,400万円で、対前年度600万円の減となりました。

純利益は全て「減債積立金」に積み立て、企業債の償還財源とします。

利益剰余金・累積欠損金・利益／損失の推移



○ 下水道事業は、平成24年度に町の特別会計から企業会計に移行しました。平成26年度に純利益を計上して以降、利益剰余金は資本的収支における収入不足を補うため、ほぼ全てを当年度の企業債の償還に充てています。

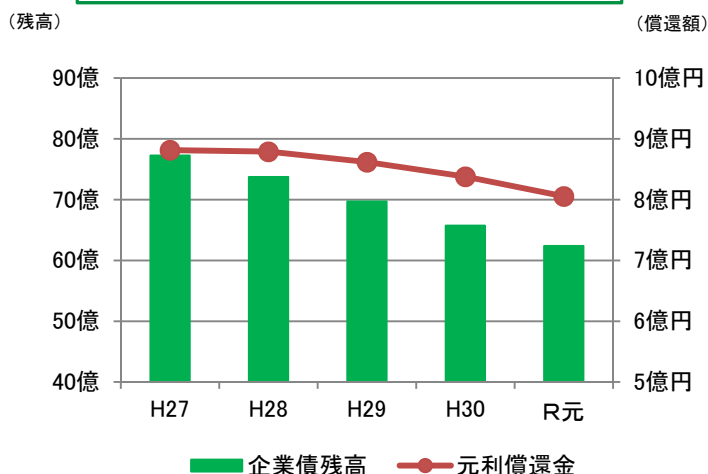
## 5 企業債残高と元利償還金の推移

下水道事業

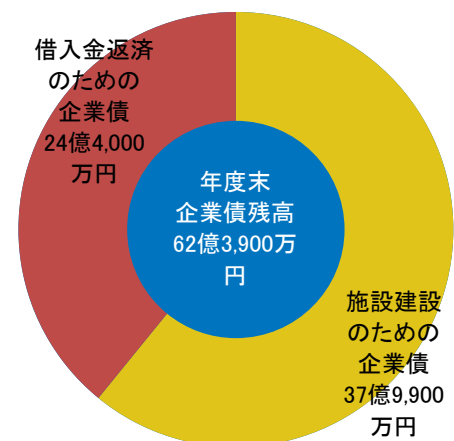
令和元年度の企業債残高は62億3,900万円で、対前年度3億3,400万円の減となりました。

令和元年度の元利償還金は8億1,000万円で、対前年度3,200万円の減となりました。

企業債残高と元利償還金の推移



令和元年度企業債残高内訳



○ 令和元年度末の企業債残高は、対前年度3億3,400万円減の62億3,900万円となり、そのうち資本費平準化債など借入金を返済するための企業債が24億4,000万円を占めています。

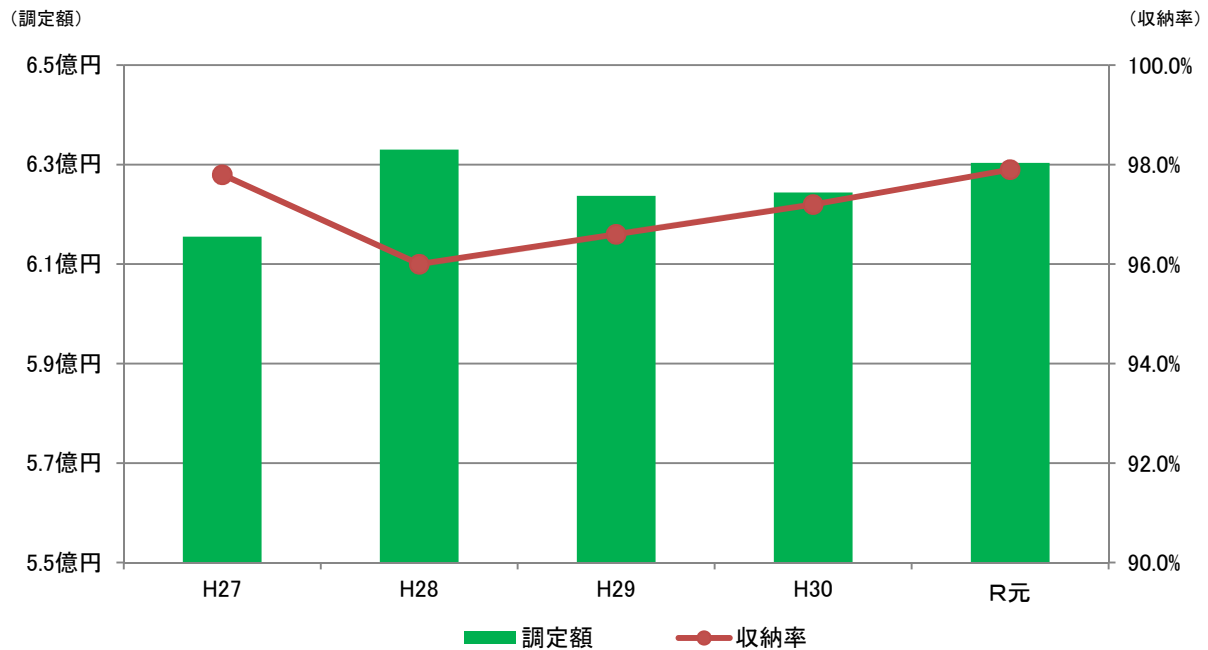
## 6 使用料の収納状況

## 下水道事業

令和元年度の下水道使用料調定額は6億3,000万円で、対前年度600万円の増となりました。

令和元年度の収納率は97.4%で、対前年度0.2ポイントの増となりました。

料金の調定額と収納率の推移



- 下水道使用料の令和元年度現年度調定額は6億3,000万円、収納額は6億1,700万円となりました。
- 令和元年度現年度調定分及び過年度調定分の合計の収納率は97.4%で、現年度分だけの収納率は97.9%となっています。

### ◆ なぜ水道料金と下水道使用料の呼び名は違うの？

水道は「料金」、下水道は「使用料」と呼び名が違うのには意味があります。

水道は給水サービスの提供を受けた対価として支払う「料金」、下水道は下水道施設を使っていることで支払う「使用料」という意味です。